

2017年7月26日

各 位

| | |
|--------|----------------|
| 会社名 | 石油資源開発株式会社 |
| 代表者名 | 代表取締役社長 岡田 秀一 |
| コード番号 | 1662 (東証第一部) |
| 問合先責任者 | 広報 IR 部長 平田 一成 |
| 電話番号 | 03-6268-7110 |

カナダ ブリティッシュ・コロンビア州における LNG プロジェクトの取りやめについて

石油資源開発株式会社 (JAPEX、以下「当社」) が在外連結子会社である JAPEX Montney Ltd. (以下「JML 社」) を通じてカナダのブリティッシュ・コロンビア州で検討を進めていた Pacific NorthWest LNG プロジェクト (以下「PNW 事業」) につきまして、7月25日 (カナダ・バンクーバー現地時間) に事業会社である Pacific NorthWest LNG (以下「PNWL 社」) が事業化を進めないことを決定しましたので、お知らせいたします。

当社は、LNG 市場価格が高騰していた 2013 (平成 25) 年 4 月に、競争力のある LNG を長期にわたり安定的に調達し、現在建設中の相馬 LNG 基地を通じて国内に供給するため、カナダのブリティッシュ・コロンビア州のシェールガス開発・生産プロジェクト (以下「上流事業」) およびシェールガスを LNG 化する PNW 事業 (上流事業・PNW 事業の総称は以下「本プロジェクト」) へ JML 社を通じて参画し、PNW 事業の実現に向けた取り組みを進めてまいりました(*1)。

しかしながら、本プロジェクトへの参画を決定した時点に比べて、LNG を取り巻く環境は大きく変化しており、現時点で PNW 事業を進めないことは合理性があると考え、今回の決定に至りました。

相馬 LNG 基地は 2018 (平成 30) 年 3 月からの運用開始を予定していますが、昨今の LNG 市況などを踏まえると、当面は LNG の調達については十分な選択肢があると判断しています。

一方、上流事業については、日量約 5 億立方フィート (原油換算で日量約 9 万バレル規模) を生産しております。当社ならびに JML 社は、今後もあらゆる選択肢を検討しつつ上流事業価値の最大化を目指し、当社の強みである E&P 事業の知見を活かした効率的な開発を引き続き実施し、豊富なシェールガス資産の活用による収益貢献実現に向けた取り組みを進めてまいります。

今回の方針変更は、低油価環境下において筋肉質な企業体質へ変革するための決断です。当社は既存計画に固執することなく、投資判断を柔軟かつ的確に行うことで、引き続き当社の企業価値の向上を目指してまいります。

なお、2018 (平成 30) 年 3 月期連結業績への影響については、PNW 事業の取りやめに伴う約 900km のパイプライン建設計画の解約費用約 6 千 5 百万カナダドル (日本円約 55 億円(*2)) を特別損失に、また PNWL 社に係る持分法による投資損失約 3 千 7 百万カナダドル (日本円約 32 億円(*2)) を営業外費用に、それぞれ計上することにより、合計約 1 億 2 百万カナダドル (日本円約 87 億円(*2)) の損失が発生する見込みです。これを含む 2018 (平成 30) 年 3 月期の通期業績予想については精査中であり、8 月 8 日に予定する第 1 四半期決算公表時に併せて公表いたします。また、PNW 事業の取りやめに伴う上流事業への影響については、今後、資産評価の見直し等を行い、業績への影響が生じる見込みとなった場合は速やかに開示いたします。

以 上

注)

*1 : 2015 (平成 27) 年 6 月 12 日公表当社資料「カナダ ブリティッシュ・コロンビア州における LNG プロジェクトの条件付き最終投資決定 (FID) について」参照

*2 : 2018 (平成 30) 年 3 月期業績予想における想定為替レート=85 円/カナダドル